

米沢興譲館高校SSH通信

子ども向け科学実験講師養成講座

7月1日（火）理数探究科希望の1年生生徒を対象に子ども向け科学実験講師養成講座を開講しました。この講座で学んだことを活かし、10月19日に行われる「米沢興譲館探究フェスティバル」にて実験ブースを運営します。

科学の楽しさを知れたSSH

1年 女子生徒

今回の子ども向け科学実験講師養成講座では実際に子どもたちに実験を教えるためにまず自分たちが実験をするというものでした。実際に実験をやると、授業のような堅苦しい雰囲気ではなく楽しい雰囲気のできたので科学を純粋に楽しめました。また、実験中は、同じグループの人と説明書を見ながら、より良く実験を進めるにはどうしたらよいか、子どもに教えるときはどんなことに注意して教えるべきか、実験の注意点はなにか、などを楽しく話しながら活動したり、他の班の実験を見に行ったりしてみんなで楽しさを共有できました。私は今回のSSH子ども向け科学実験講師養成講座を通して科学の楽しさを再確認できました。実際に子どもたちと実験をするときには、私が体験した科学の楽しさを伝えられるように、子どもたちと積極的にコミュニケーションを取ったり、実験のときに生まれる驚きや発見を尊重したいです。



1年探究講座①（国際探究分野）

7月1日（火）国際探究科希望の1年生生徒を対象に、SDGsについてリコージャパン株式会社山形支社 佐藤亮敏氏、野口恵美氏を講師に講義を受けました。ワークショップを通して理解を深め、持続可能な社会の担い手となっていくための意識向上をはかりました。7月22日に第2回目のワークショップが行われ、10月19日に開催予定の「米沢興譲館探究フェスティバル」にてSDGsブースを運営します。

学び、考え、また考える

1年 男子生徒

今回のワークショップで学んだのは、私達が社会課題を解決するためにどんな思考をすればよいのかです。それは、大きな課題を地域の課題として置き換え、地域のために自分から何かをしようと思うことです。

講師の先生方のわかりやすい説明とカードゲームでさらにSDGsについて理解を深めることができました。私はそのカードゲームで行った思考のプロセスこそ真の課題解決のプロセスだと考えています。それは、まず課題について深く知り、自分で解決策を考え、それを他人に共有することだと思えます。「3人寄れば文殊の知恵」を今日はとても実感することができました。自分では考えつかなかったアイデアを周りがたくさん共有してくれたからです。

課題を解決するためには、まず学び、そして考えないと始まりません。そして、他人の考えを聞いてまた考えます。このプロセスがどんなことにおいても大切だと思えます。これを意識してこれからもこの話題について考えていきたいです。



2年探究講座①（国際探究分野）

7月1日(火) 2年国際探究科生徒対象の探究講座が行われました。株式会社 新田様に訪問し、米沢における紅花栽培について講義を受けました。

紅花を学ぶ意義

2年 女子生徒

国際探究科では、株式会社新田さんを訪問しました。

紅花と聞くと、大抵の山形県民は白鷹町を連想すると思います。実を言うと私もその一人でしたが、驚くことに、米沢市は白鷹町に次ぐ県内2番目の紅花生産量を誇ります。さらに、米沢市役所や地域の関連団体が連携し「最上川源流よねざわ紅花プロジェクト」が令和3年から始動し、今まさに各種イベントが催されています。

「国際」探究科である私たちがこのような地域に根ざした活動を学ぶ意義は、文化や技術の継承、先人たちの郷土愛、同世代の若者の活躍、現代のマーケティング、紅花の歴史等々を「当事者から」直接教えて頂くことにあります。そして、美しい唐紅の色やきめ細やかな真綿の質感、リズムカルな織り機の音は、パソコンやスマホで調べても体感することはできません。「知る」だけでなく「感じる」ことが自文化・他文化理解の近道だと感じました。



229

山形県立米沢興譲館高等学校SSH事務局

URL <https://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/index.php> Email yonekojo@pref-yamagata.ed.jp
〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101番地 Tel 0238-38-4741（代表）

